

第2回甲賀市総合計画審議会

～『甲賀の魅力再発見！！まち・ひと・しごとめぐり』を実施しました～

甲賀市総合計画審議会では、次期総合計画(第2次総合計画)の基本構想を議論いただく前に、市内の地域資源や歴史に触れあう機会として、7月12日に市内の”まち”(地場産業のまちなみ・文化財施設・民俗芸能)、“ひと”(国際交流協会・まちかどガイド)、“しごと”(水口工業団地・農園・六次産業施設)を視察しました。

今回の視察では、様々な地域資源や歴史に触れ、甲賀市の強み、そして弱みについて確認いただきましたので、今後の議論を進めるうえで大きな成果となりました。

※甲賀市では、甲賀市の人口の現状と将来像を示し、これらを実現するために、今後5か年の目標や施策、基本的方向を提示した「甲賀市版総合戦略」を10月に策定します。また、甲賀の國づくりをめざし「甲賀市版総合戦略」を包括したかたちで、平成29年度をスタートとする「第2次甲賀市総合計画」を策定します。

▼オカムラ農産(水口町宇川)にて



▼甲賀町小佐治のもちふる里館



▼油日神社



▼谷寛窯(信楽町長野)にて



▼集合写真



行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【工業界】 工業団地</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が集中した所に立地されている。交通の便も良い。 ・成長し続ける自動車産業部品と安定した人材確保。 ・交通の利便性が高い甲賀市は企業ニーズが高い。 ・大手企業の誘致→知名度が高い。 ・甲賀市工業界は市収入の一定のベースになっている。 <p>滋賀県内第1位：製造品出荷額（滋賀県全体の11.4%）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・100社以上が密集している ・大手自動車メーカーへの部品提供工場として立地は抜群。 	<ul style="list-style-type: none"> ・雇用創生。 ・地域貢献。 ・市内優先の採用と定住。 ・地域への貢献、恩返し（夏まつり）工場働く人が甲賀市へ転入する。雇用が生まれる。 ・雇用の安定（外国人の採用） ・協同で夏祭りなどのイベントを行うことで企業PRなどに繋げている。 ・モノ作りを通じての地域社会への貢献。 	<ul style="list-style-type: none"> ・若手従事者について。 ・宿泊施設や賃貸住宅不足。 ・市内に工業高校がなく市外の学生採用の現実。 ・社宅、ホテル、寮の不足。 ・出張などお客様が来られた時に泊まる場所がない。 ・人口減少に伴う人材確保が困難となり、会社存続の問題にもかかわる。市外から来た社員の住むところが少ない。 ・中小企業が多いのでリスクは高い？ ・空き地の活用ができていない。 ・人材確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の高校との連携。工業系では信楽高校、総合系では甲南高校など。 ・需要に見合った施設の充実。 ・市外の学生の居住環境不足、空き家の活用。 ・人材確保のための工業系生徒の定期採用。甲賀市内でも工場働く人材育成のために、学生の斡旋、補助を。 ・エリア内での工業高校誘致。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲賀市が県内出荷額トップということを知り、さらにこの強みを活かして現存企業の関連企業の誘致に力を入れて欲しいと思った。人口動態により就労者人口の減少化も近い将来には否めない状況なので早めの対策は必須だと思った。 ・県内工業売上高1位という事で、地元採用を増やすため、市内で工業高校を設立できると良いのではないのでしょうか？いろいろな業種の大手工場も多数あり就職先としては魅力があると思います。 ・甲賀市に来ようと思って来る人だけでなく、仕事の関係で来られたひとに甲賀市が良いところだと思ってもらえたら、次はプライベートで来ようとか、住みたいと思ってもらえる。 ・工業団地の中にも空き地が見受けられました。企業存続が難しくなり工場が撤退とならないよう居住地の確保、交通の利便性等は急務であると感じました。また大手企業の名前を借りて「工業団地のあるまち“甲賀市”」をもっとPRすることができるのではと思います。 				

大手企業が集まる＝人が来る、雇用が生まれる。

- ・滋賀県で第1位の製造品出荷額を見ると比較的景気に左右され難い職種（化学工業、輸送機械、プラスチック）多いと思う。従い、大きな伸びもないが大きな減少もないかと思う。
- ・初めて工業団地に行ったが、予想よりも広がった。
- ・製造品の出荷が県内一位ということで甲賀市が誇れるものの一つであると感じた。もっと地域の人との関わりが持てる取組みをすることで地域に根付いたものになってほしい。
- ・大手メーカーの進出する環境の整った工業団地。一方で業種によっては、業績不振、工場集約等の撤退リスクも常に抱える。

行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【農業】 オカムラ農産</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・信念をもって農業に従事されておられる。農業に対する情熱が感じられる。 ・農協ばかりではなく自助努力による市場開拓と、人と人、ハートとハート顔のみえる旬の野菜の安定的販売。 ・福祉施設への提供。「旬」にこだわった畑。 ・安心安全に自信をもった米作り。 ・企業としての農業。 ・オカムラ農産ブランド ・人と人との繋がりを大切にしている。 ・44haを家族6人自営。 	<ul style="list-style-type: none"> ・これまで同様に、またこれからも地域の農業者への先導的役割や若年農業者の憧れの役割を果たして頂きたい。 ・楽しんで農業に向かい合い、安心安全な商品を生産し、時間と季節を最大に活用された生活。 ・インターネット販売×ひととひととのつながり○ ・地元病院等へ直接販売 ・ネットを利用しない生産者と消費者の直接のつながり重視。 ・大型農家への国からの補助 ・家族経営でできる範囲の事業展開。 ・インターネット販売はせずに、地域の福祉施設などに提供している。 ・安心・安全な食材生産。 ・自社ブランド米の生産。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オカムラ農産さん自身には弱みは拝見できませんでしたが兼業農家の役割について気になりました。 ・米価の下落。 ・家族、身内社員。 ・後継者。 ・獣害。 ・兼業農家への補助が充実していないため、負担が大きくなり農家をやめてしまう。 ・後継者不足。 ・担い手が少ない。 ・天候の影響を受ける為、経営が安定しない。 ・天候の影響多大。 	<ul style="list-style-type: none"> ・兼業農家の役割発揮とそれに対する公的支援。 ・世界遺産により日本の野菜、米は伸びるはず。グローバル時代に伴う需要の拡大。 ・税金の使い道。もっと兼業を支援する取り組みを。 ・兼業農家をささえるための補助 ・若手後継者の育成、農業学生の指導地域農業を残していく必要がある。 ・今後の農業経営形態として展開？ ・兼業農家を支えていけるような取組の提案。 ・各優遇施策が必要。 ・若手人材育成。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人と人とのつながりの中での生産・販売を！という尊い想いに敬服し、甲賀農業の明るい将来像を垣間見ることが出来て嬉しかった。岡村さんが仰っていた兼業農家への問題提起は大変有難かった。 ・旬の物を中心に栽培する事でのおいしさなどのメリットをもっとアピールしてみてもはどうでしょうか？ ・栽培から収穫までの農業体験を気軽に出来るようにしてみてもどうでしょうか？ 				

- ・信楽や水口に道の駅を作ってみては？（現在は土山だけ??）
- ・兼業農家を育成、補助する政策をとってもらわなければ、日本の美しい田園風景は維持できなくなる。とオーナーさんが話されてましたが委託農家の私も日頃感じているところです。
- ・家庭でスーパーに売っているものではなく、こういう農家で旬の野菜を買うようにしたい。
- ・甲賀市のお米や野菜は水や肥沃な土壌にはぐくまれ、大変おいしいと思う。「甲賀野菜」のブランド文字を目にすることがあるが、あまり手に取ったことはない（手にとっても気づいていない？）ので PR が必要だと思う。また地産地消の意識を高め、地域農業、甲賀市の美しい田園風景等を残していく必要がある。
- ・“ネット販売をしない”と言われた言葉が印象的。出来る限り地産地消する考えが理解できた。
- ・岡村さんのお話から仕事の楽しさが伝わってきた。仕事内容は、時期や作る作物によって変わってくるということで型にはまらないところが農業の魅力だと感じる。後継者の問題解決の為には、このような農業の魅力を次世代にアピールするというのも一つの案だと思う。
- ・TPP を見据えての農地集約・規模拡大の方向性の中、多くの課題が山積することを認識できた。

※6次産業化とは

農林水産業（1次産業） × 製造業（2次産業） × 流通・販売業（3次産業） = 6次産業.

農林水産業や農山漁村の再生・活性化を図っていくために、農林漁業者が、農林水産物の生産（1次産業）だけでなく、食品加工（2次産業）、流通・販売（3次産業）にも主体的に取り組むことによって、新たな付加価値を生み出し、儲かる農林水産業を実現し、農山漁村の雇用確保と所得向上を目指す取組の事です。

行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【国際・まちづくり】 国際交流協会 甲賀看護専門学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際看護を含めて看護全般について熱心に取り組まれている。 ・地元育成、地元採用の強み。 ・地元のひとを優遇。 ・最後は地元で就職してもらう。 ・甲賀市内の工場等への働き手として外国人労働者が多く住む。 ・活発な活動（フェスタ、国際交流など） ・市内に看護学生を養成する学校がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内の学生、転職入学も含めた学生、外国籍の学生の確保と市内医療機関への就職。 ・人口増加。 ・外国人と地域住民との交流。 →学生の実習の機会が生まれる ・組織変更しながら改革の実施 “まちづくり”も重視。 ・医療、福祉現場における外国人に対するの対応強化。 	<ul style="list-style-type: none"> ・寮、住居問題。 ・男子に厳しい。 ・言語等の問題。 ・学生が卒業後市外へ出てしまう。 ・形骸化？ ・男子学生への受け入れ先が少ない。 ・職員の数が少ない 	<ul style="list-style-type: none"> ・空き家、空きマンションの整備。 ・外国語に対応できる生徒の育成。 ・甲賀市内の病院での雇用の確立。 ・学生への住居補助等。 ・組織変更・人材を広く募る。 ・市内での就職を推進。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・甲賀看護学校は授業料も安価ということなので学生にとっては学びやすい環境である。看護師不足の現況を鑑み、多くの学生に門戸が開かれるように期待したい。 ・国際交流については多文化共生の意識をより多くの市民が持てるような情報発信等を今後も地道に行って頂くことをお願いしたい。 ・せっかく他県から勉強するために集まってきているので、市が補助するなどして市内の病院・施設に多数の人が勤務できる体制を整えてみてはどうでしょうか？ ・地元のひとを優遇するのはいいと思った。囲い込み！ ・外国人の方にとって日本での生活はいろんな面に支障がある。とくに今回医療学生の講座を見学して、医療等の専門的な用語を使う場面では大変であり、受け入れる側の知識が必要不可欠。学生たちへの講座を開催することで意識の向上にもつながりとてもいい機会であると思った。外国人にとっても住みよい甲賀市であることは、地域産業（工場等の働き手）の確保へもつながる。 ・10年を大きな節目として、まちづくりに大きく変化しようとしている。この動きは様々なまちづくり活動をする人・諸団体との協働がし易くなっていくと思う。 ・外国人にとっての住みやすい街をつくることも重要だと感じた。看護師を志す学生が、学ぶべき分野だけでなく様々な事へ挑戦している姿に刺激を受けた。 ・少子高齢化の中で、外国人看護師の活用は国内医療現場では将来的に不可欠と感じる。 				

行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【文化財・祭事】 黒滝の祭り</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化の継承。 ・ 伝統芸能への強い思いとゆたかな自然。 ・ 地域の伝統的な祭り。 ・ 地道な継続。 ・ 研究者からの評価が高い。 ・ 歴史が深い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域での存続保存の努力。 ・ 人口、若者不足の中、維持されている村人の責任感に感動しました。 ・ 地元の誇り、風景。残すべき伝統。カメラマン、観光客が黒川を訪れる。 ・ 地域で楽しみながら継続させている。 ・ 高齢者が躍りを見ることで昔を思い出し、元気になる 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 過疎化、担い手不足。 ・ 伝統を引き継ぐ担い手不足 ・ 祭りを同じ市民が知らない。 ・ 各所で実施する太鼓祭りの横のつながりはないだろうか。今後の踊り手に問題。 ・ 若い人が少ない(担い手不足) ・ 若年層の地元離れ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 歴史、言われ、伝承等 PR し認知度を上げる。土山に伝わる全ての踊りを伝承踊りの街として観光化しては？ ・ 若い担い手の育成。 ・ 甲賀市全体で祭りを残す。 ・ よき文化をどう継承・発展させていくか。 ・ 学生が U ターンする環境が必須。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 祭りや伝統行事は地域が盛り上げるものではあるが、地域の人々にとっては大変な苦勞を強いられる。存続についての問題は深刻である。どうやって守っていくか、当該地域のみ問題としてではなく、市全体の問題として考えるべきである。 ・ 伝統の祭であれば、町内だけではなく、市全体で協力して踊り手や歌い手を探し継続していく必要があると思いました。また、広報などを使っての告知もすれば良いと思いました。 ・ 鈴鹿連峰の山村の豊かな自然と素朴な踊りしばしの癒しの時間でした有難うございました。 ・ こういう歴史のあるイベントに若者が価値を見出して、もっと興味をもつべき。 ・ 祭りの風景もちろん、黒川の山間の風景がとても美しく印象的だった。地域に残る伝統産業を残していくために、後継者の育成はもちろん、地元の風景を残すためにも地域を支える若い人たちの定住が必要であると感じた。 ・ ある地域に集中して似通った祭事が行われている事に驚く。その集中する地域の様々な作物に対する雨乞いがこの地域になぜ集中している事に興味を覚える。 ・ 初めて拝見させていただいた。とても歴史深い祭りで、また衣装も派手であったので、目を惹きつけるものがありました。 ・ 観光誘致の一環として市外への発信が必要。 				

行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【六次産業】 甲賀もち工房</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の土壌特性を生かした地場産業。 ・300 万年前の古琵琶湖の粘土土壌と気候。 ・高速が近い。 ・餅を使った新しい商品。 ・古琵琶湖層の肥沃な小佐治地区の土壌。 ・市内の農業の「6 次産業化」の草分け。コミュニティビジネスも兼ねそなえた会社を目指している。土地の特長活かした農業づくり。 ・町の特産品として親しまれている ・他にない商品性。。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の興隆。 ・雇用創生。 ・もち米栽培に適した圃場を活用小佐治もちの全国的な開拓と六次産業の開発。 ・品質の高いもち米を生産し、このもち米を使った製品作り、販売をおこなう。 ・継続的な製品開発力； <p>例（米の新しい食べ方の提案）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・数々のメディアへの出演によるアピール。 	<ul style="list-style-type: none"> ・安定的な販売。 ・夏場の売り上げの減少。 ・餅の売れる時期の偏り、特に夏は売れない。 ・同じ土壌の近隣地域との兼ね合い。 ・繁忙期、閑散期の差が大きい。 ・市外・県外への発信力。 ・マーケティング ・6 次産業化は進んでいるが、商品を販売できる場所が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・商品開発。 ・商品 PR。 ・米麺は、大量生産し乾麺にして販路拡大はむりでしょうか？ ・年末年始だけじゃない新たなもちの商品。 ・新しいメニューの考案（米粉麺） ・売れ行きが低い夏場を乗り切る為の商品開発。 ・若者の目を惹くような名前を付ける。 ・エリア内他ブランドとの融合。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域特性を生かした産業で、地域自らが元気になる。また、そんな姿を若年層も見て育つ、という良い環境にあると思う。地場産業としては理想的ではあるが、創始されてから今日までの御苦勞を推し量ると、起業する姿勢を後押し出来る施策が大切であると思った。 ・現地で米めんを食べ、とてもおいしかったので購入したが、自宅では同じ味にならなかったのもう少し自宅でもおいしく食べられる調理方法を書いてくれるとリピーターが増えると思います。 ・戴きました。昼食で印象に残ったのが米麺です。食感が最高でした。小佐治地区だけではなく、佐山餅として学区全体で取り組まれたらどうですか？ ・大変おいしい粘りのあるお餅でした。もち米を利用した様々な製品の考案に、女性の活躍を感じることができた。「食」の名物があまり少ない甲賀市にとって、名物となる一品であると思う。 ・熱意のあるリーダーがおられ、積極的に製品開発されている事に感銘を受ける。もち米のブランド向上と生産量拡大策に尽力されている事に敬意を表したい。 ・様々な商品が開発されており、米粉のもつ可能性は膨大であることを感じた。地域で作られたものが食卓に並ぶ(地産地消)という安心感は大きい。今回いただいた、「米めん」はコシがありとても美味しかったので夏場にぴったりの商品としてより多くの人に食べていただきたいと思った。 ・商品としては、ブランド力、価値は十分あると感じています。後は、その発信とマーケティングが必要と思いました。 				

行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【文化財・観光】 油日神社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・古い歴史（創建、樹齢、文化財） ・本格神社建築(本殿・拝殿・楼門・回廊)。 ・木造建ての本殿や珍しい回廊など、昔からの姿を残す美しい神社 ・文化財と自然との調和 守り続ける人々の御尽力。 ・木その物の素材の良さを活かした建造物。 ・歴史ある鐘。 ・現物と歴史。 	<ul style="list-style-type: none"> ・祭礼（5/1）太鼓踊り、奴振り ・最近では TV のロケ地などとして多く使用され、観光振興にもつながっている。 ・比較的市内には価値の高い史跡や旧跡があるのでPRする「のびしろ」の大きさは無限大だと思う。 ・数々のドラマ、映画のロケ地として使用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・PR不足。 ・建物の保存。 ・交通の便が悪いことが短所であるが、長所でもある。長閑で静寂な立地の魅力を温存する努力が必要。 ・木造は、火に弱い。 ・知られていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市内・近隣の名所旧跡と連携した観光促進。 ・テーマ別に点在する史跡を繋いで観光PRする。 ・後世に残す為に火の対策を徹底している。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・回廊に腰掛けていると心静かになり落ち着く。パワースポットでした。 ・はじめて訪問したが大きな楼門や回廊が珍しい、とても立派な神社で驚いた。油日神社の他にも甲賀市内には見ごたえのある寺社仏閣が多い。甲賀市の観光振興につながる財産である。 ・自然の樹木、社、心が洗われる様な神聖な気持ち、雑念がはらわれます。鳥居の前を通った時はお参りさせていただいてます観光化しすぎてもとはおもいますが、映画スポットとしてのPRは？。 ・当日は、神主さんが説明をしてくれ、神社の歴史などが良くわかりましたが、通常であれば誰もいない神社だと思いますので、神主さんが話してくれた内容を伝える自動音声などがあると良いのではないかと思います。 ・京都・奈良といったメジャーな観光地にはない、静寂の中での厳かな雰囲気観を観光PRの根幹に据えて取り組んでみるのも面白いと思う。拓かれていない素朴な魅力は観光客を引き寄せるのではないかと思います。 ・とても暑い日であったが、板間の回路に座しているととても涼しく大変居心地が良かった。 <p>甲賀は、お店や団地が集結している場所がある一方で、厳かな雰囲気心で心が休まる空間もあるという点が大きな魅力である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・神社単体での観光誘致は困難。市内、エリア内の他ブランドと組み合わせ、ストーリー性を持った取組みが必須と感じます。 				

行程	強み（長所）	強みを活かした取組み	弱み（課題）	弱みを克服する取組み
<p>【地場産業・まちづくり】 窯元散策路</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・女子力の強さ・リーダーシップ。 ・日本六古窯・伝統工芸品の認定。 ・窯元散策路＝信楽焼の産業を生かしたまちづくり。 ・滋賀県立大学の学生と協力してまちづくり。 ・信楽焼、紫香楽宮跡、お茶、高原野菜、陶芸の森、ミホミュージアム。 ・知名度の高い信楽焼。 ・窯元さんが信念をもって守り続ける情熱。 ・地域のおかみさんのパワー。 ・甲賀市で最も観光客が集まる。 ・魅力ある観光資源がある。 ・近所の人との繋がりが深い。 ・近隣では「ここしかない」という強み。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的活動。 ・長野地区だけでなく拡大。 ・窯元のおかみさん：女性ならではのおもてなしやイベントの開催。 ・若い年齢層の信楽ファンの獲得 ・伝統産業、日本の歴史を語るものから近代的美術館、お茶等素晴らしい町だと思いますバラバラ活用でなく一体化して考えては。 ・住民の方、それぞれの持ち場を生かして地場産業の興隆に尽力されている。知名度抜群の良さにプラスされる力が絶大である。 ・地域の方とおかみさんの会を設立。 	<ul style="list-style-type: none"> ・土の確保が難しくなりつつある。 ・信楽焼産業の低迷すべての窯元さんが観光客を受け入れしているわけではない。 ・一部の取組み。 ・土が不足(三重県との県境にある為問題が多い)。 ・インフラも含め、特に県外より人を招く体制が弱い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本六古窯の一つとしてのPR索はないのでしょうか。 ・信楽全体がおもてなしの雰囲気になるよう、売り手・作り手、地域住民の意識の向上。 ・窯元の解放。
<p>感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・“土の確保が命”が強く心に残る。 ・信楽焼をただ買うだけでなく、その生まれる場所を見ることのできる窯元散策路の人気は高い。特に窯元のおかみさんたちが活動をはじめてからより活発になってきたと思う。地域に住む人たちが主体となつてとりくんでいただけることで「信楽ファン」が増え、地域観光の活性につながる。この動きが散策路の一部でなく、信楽全体に広がることを期待したい。 ・信楽は時々訪れますが、独特の雰囲気がありほっとします。古きをまもり新しくを知る・・・そんな町です。おかみさんの会窯元散策路と町全体にも広げ女性ならではのアイデアを發揮されたいのでは。 ・信楽には過去何度か行った事あったが、基本は国道沿いのお店のみで、散策路は始めてでした。もう少し、周辺の看板などでアピールしていただくと通りすがりの観光客はわかりやすいと思いました。 ・旧校舎を利用したギャラリー兼、工房は至極、魅力的でモダンな雰囲気を醸し出している。今もされておられるPR活動の継続により、多くの観光客や買い物客をもっともっと引き寄せることが出来ると思う。ここにまた訪れたい！というリピーターが多いのではないだろう 				

	<p>か。おかみさん達の温かいおもてなしが多くのお客様を惹き付けるのだと感じた。</p> <ul style="list-style-type: none">・若者の間でカフェ巡りがブームとなっており、SNS などでも様々なカフェの情報が回っているが、信楽の記事は目にしたことがなかった。素敵で信楽のカフェをもっと発信していくことで若者が窯元に足を運ぶきっかけになってほしい。・市内でも地理的にも“独立”したイメージ。市内全体での協調した観光誘致が必須。
【その他・全般】	<ul style="list-style-type: none">・個々ではとても良いところばかりなのですが、つながりがないのかな？と感じました。例えば、「油日神社から最短でいける場所は信楽（30分）」みたいな案内が多数あれば、ついでに行ってみようという気持ちになると思います。・井の中の蛙でした、素晴らしい甲賀市に気が付きました。 恵まれながら関心を示さず目覚める機会もなかったのかも。活かしていく様市民が関心を寄せるべく行政の力を借りながら発信していく。・欠席者もおられたので、2回目も行ってはどうでしょうか。審議委員からの要望も聞いてテーマを絞って同類のまち・ひと・しごとめぐりを。・上記について、現在行われている事があれば申し訳ありません。しかし、知らないという事は広まっていないと考えていただいて良いのでは？と思います。・検討を重ねていくべきと感じました。